オーディオ実験室収載

音源の比較試聴(19)
―シューベルトの 8 重奏曲―

１． 始めに

前報(17)に引き続き、各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

２． 音源の比較試聴の試聴方法と音源

各種音源の再生経路に関するアースアキュライザーを含む種々の再構成はアースアキュライザーの活用(6)で述べたとおりで、さらに対策を追加しています。今回もそれらの対策の効果を、音源を替えて総合的に確認していきます。

音源は、下記の音源のフランツ・シューベルトの 8 重奏曲ヘ長調を聴いていきます。

アナログ盤

PHILIPS　SFX-8590

ベルリンフィルハーモニー8 重奏団

CD

Paradise Records　PRCG-1003

チェコハーモニック 8 重奏団

Wistenia Project BPOC-0001

ベルリンフィルハーモニー8 重奏団

ベルリンフィルディジタルコンサートホール

ベルリンフィルハーモニー8 重奏団

３．音源の比較試聴の試聴結果

アナログ盤のベルリンフィルハーモニー8 重奏団は、1971 年の録音です。1928 年創設のアンサンブルで、この時点で 40 年以上経過しており、その後さらに 50 年を経過して、もうすぐ 100 年になろうかということです。録音は少し以前のものですが、演奏会の印象、後で述べる CD の印象、配信の印象も一貫しており、伝統のアンサンブルという印象です。

CD のチェコハーモニック 8 重奏団は、1997 年の録音です。シューベルトの 8 重奏曲は、長い歴史を有するベルリンフィルハーモニー8 重奏団の演奏が定評あるところですが、聴き比べてみると、弦や管楽器の演奏で定評のあるチェコのアンサンブルだけあって、ベルリンフィルハーモニー8 重奏団に劣らない演奏で、艶やかな音がします。

CD のベルリンフィルハーモニー8 重奏団は、ウィーン交響楽団と樫本大進のコンサ

ートの演奏会で求めてきたCDで、これに先立ちベルリンフィル八重奏団によるこの曲の演奏を演奏会で聴いています。購入時の試聴は、ディスコグラフィー【2017No.78】で報告していますが、その後、スピーカーアキュライザーや仮想アースなど種々の対策を施してきていますので随分と印象は変っており、少し記憶は遠のいていますが、演奏会の印象を思い出しながら聴けました。
ベルリンフィルディジタルコンサートホールのベルリンフィルハーモニー8 重奏団は、2020年の収録でコロナ感染対策のため奏者間の距離をとった演奏です。演奏はまぎれもなくベルリンフィルハーモニー8重奏団ですが、奏者間の距離をとった演奏なので音が散漫になっている感じがします。

４．まとめ

いずれをとっても、アースアキュライザーの投入とそれに伴うアースラインの再構成、さらにはAVドーナッツなどの結果、すべて効果がそれなりに現れ、演奏の違いや収録年代の違いも把握でき、また、収録年代やメディアは違っても、ベルリンフィル８重奏団の伝統ある演奏は一貫しており、格落ちするような音源のフォーマットや再生経路はなくなったことが確認できました。

以上